

町田市立 鶴川図書館

鶴川図書館の再編に関する説明会

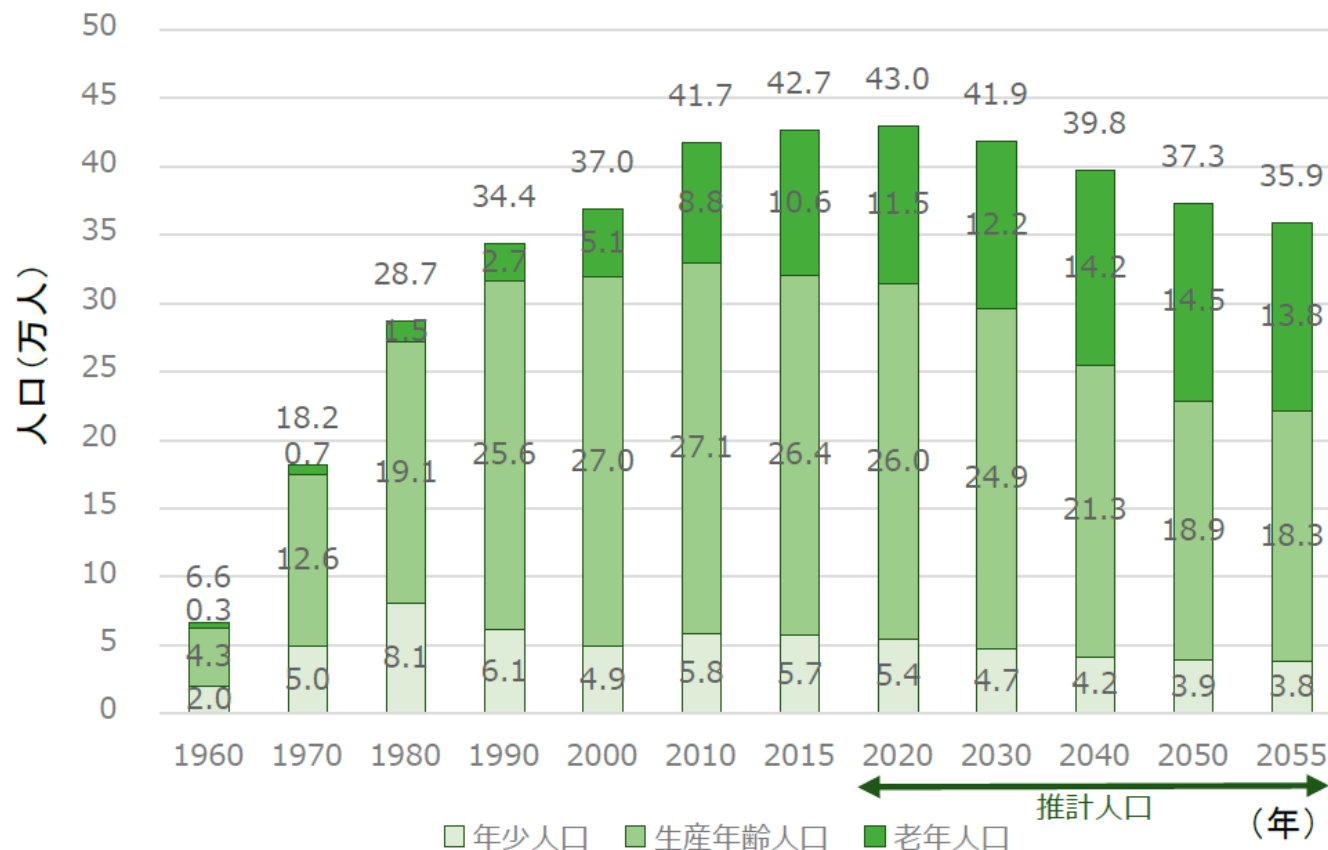
2023年2月8日・12日

町田市立図書館

1. はじめに
2. これまでの経緯について
3. これからの方向性について
4. 方向性の実現に向けて

再編が必要な背景：社会状況（人口）

町田市人口の推移と将来推計（時点：各年1月1日）



出典：町田市公共施設再編計画

① 公共施設の老朽化

維持していくためには
これまで以上にお金がかかるのに



② 厳しい財政状況

これまで以上にお金をかけていく
ことはできない

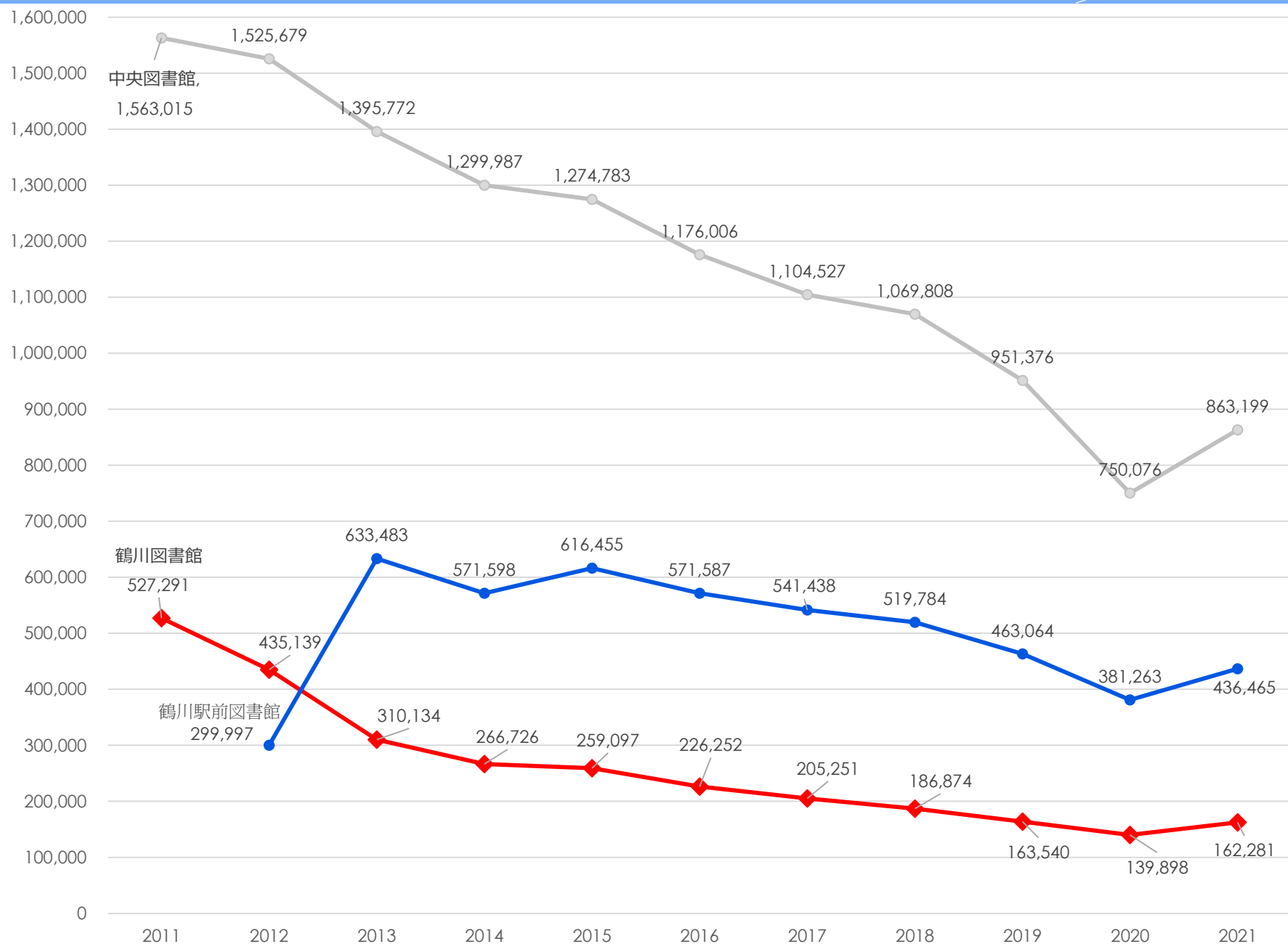
これらを乗り越えて
必要な公共サービスを将来にわたって維持
または向上させていくための取り組み



公共施設の再編

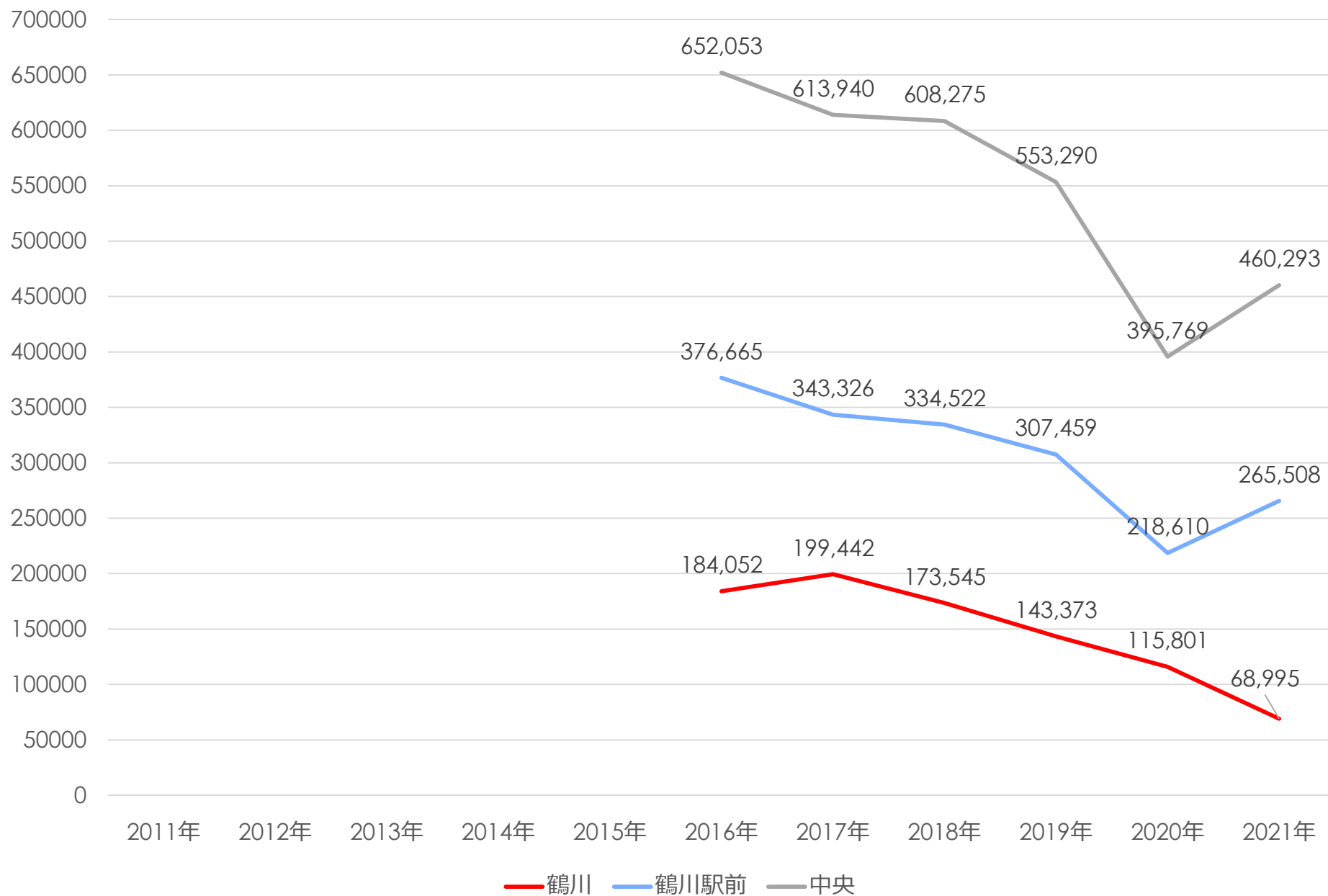


1. はじめに（図書館の貸出冊数）



1. はじめに（図書館の来館者数）

06



図書館の再編

図書館においても、将来にわたりサービスを継続していくため、施設の再編を検討してまいりました。そこで、近接して図書館がある場合や利用状況が大きく減少している場合は、施設老朽化の状況をみながら再編を進めることとしました。

- ・一部の図書館は配置が近接している
- ・図書館の個人貸出数は2012年度をピークに減少傾向が顕著
- ・8館ある図書館の中で、築30年以上が5館、うち築50年以上が2館（鶴川、さるびあ）

鶴川図書館の再編

- ・鶴川駅前図書館が2012年10月に開館
 - ・個人貸出数の減少率が図書館の中で最大（特に鶴川駅前図書館開館以降の減少率大きい）
 - ・来館者数も同様に大幅な減少傾向が続いています。
 - ・団地自体の老朽化がすすんでおり、UR都市機構による建て替えが計画されています。
- 鶴川図書館を集約化対象の図書館としました。
- ・集約にあたっては、代替機能等の配置と地域団体等による運営の支援を積極的に検討することとしています。

本日の趣旨

鶴川図書館の再編においては、ただ単に図書館をなくすのではなく、地域との対話を大切にして、公共空間の新たな価値をつくりたいと考えています。

2019年度から地域との対話を進めてまいりました。また、2021年2月、3月には「鶴川図書館再編後の姿を考える」と題したワークショップを実施し多くの提案をいただきました。

対話やワークショップ等を通じていただいたご意見を踏まえて、市としての方向性をまとめましたので説明いたします。

2. これまでの経緯について

これまでの経緯（町田市計画、地域との対話やアンケートの実施など）

● **2017年9月** 「鶴川図書館を鶴川団地センター商店街の中に存続させることを求める請願」 ⇒町田市議会で採択

● **2018年5月実施ワークショップ「鶴川地域図書館のこれから」**

⇒「現状の鶴川図書館の使い方」について

- ・地域住民の利用が多く、地域生活の一部としての役割を担っている
- ・子どもだけで立ち寄れる
- ・職員の顔が見え、レファレンスも話しやすく助かっている
- ・小さい図書館のため利用者の顔も把握できることから、見守りとしての役割も継続する必要がある
- ・今後は、子育て世代に選ばれるようなサービスを行う必要がある

● **2018年6月<町田市公共施設再編計画>**

・集約化や複合化・多機能化により建物の総量を圧縮しつつ、地域の活動拠点に機能を移転することで、図書に触れる機会や図書を通じた交流の機会を増やす。また、市民等の活力を活かした図書に関連するサービスにより、図書に親しむ機会や場の充足を目指す。

● **2019年2月<町田市立図書館のあり方見直し方針>**

・サービス圏域の重複や、老朽化した小規模館図書館で利用の減少がみられることから、「総量適正化・集約化」の検討を行うものとする。

● **2020年2月<効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン>**

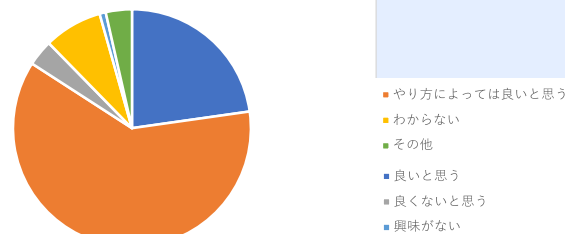
- ・鶴川団地センター街区建替え計画の進捗に応じて、再編を進める。
- ・建て替えが長期化する場合は代替機能の配置などを先行して実施。
- ・代替機能配置にあたっては、地域団体等による運営を支援する体制を検討。

● **2020年3月** 「効率的・効果的な図書サービスのアクションプラン」の見直しを求める請願 ⇒町田市議会で不採択

● 2020年8月-11月実施「鶴川図書館の再編に関するアンケート」

⇒Q3 鶴川図書館を地域住民等を主体とした市民協働での運営に変えることについてどう思いますか (N=123)

「良いと思う」、「やり方によっては良いと思う」を合わせると
8割以上の方が、市民協働型の運営に好意的な回答



● 2021年2月-3月実施ワークショップ「鶴川図書館再編後の姿を考える」

⇒「こんな図書館がいいな！こんな図書館が地域にあるといいな！」

・ゆったりできる。子供が走り回って良い。本を介して人と出会う、話ができる。外で読書できる。不登校引きこもり児童カウンセリング

⇒「地域コミュニティでこんなことができるといいな！」

・地域のお悩みを相談できる窓口。地域活動団体が無料で借りられるスペース。子育て支援。地域の野菜販売。Wi-Fi設備。

⇒「市民ができることを考える市民協働の図書館運営」

・「運営協議会」のような市民組織で市民が考えていく場。図書館活動を支えるためにできることをやる。

● 2022年3月<町田市5カ年計画22-26>

・鶴川図書館をコミュニティ機能を併せ持つ市民協働型の運営へと転換していくことが重点事業として位置付けられた。

⇒今年度は、**町田市5カ年計画22-26に基づき**、市民協働型の運営への転換を目指し、

①地域との対話 ②市民参加型イベントの試行実施 ③方向性の作成 ④運営団体の立ち上げに向けた意見交換を行ってまいりました。



地域との対話

(年度)	(実施回数)	(延べ人数)
2020年度	25回	168人
2021年度	19回	45人
2022年度	41回	157人 (12月末現在)

□2020年度～2022年度における実施状況

実施回数：**85回**

延べ人数：**370人**

地域からの意見（抜粋）

- ・最低限、図書館システムへの接続と司書の常駐はしてほしい。
- ・図書館法上の図書館で他館から本を取寄せられるようにしてほしい。
- ・千冊を超える選書は専門知識がないと困難。地域住民に運営をまかせるのなら、自動化の仕組みは必要。
- ・近くに住んでいるので子どもの頃から使っているが、近頃では予約した本の受け取りしかしていない。
- ・本は買う派なので図書館はあまり使ったことがない。
- ・認知症の人が働ける場があるとよいが、図書館の本の分類は難しいので、働きやすくしてほしい。
- ・小さい図書館は大きい図書館に蔵書ではかなわない。
「いつも同じ本がある状態」でないようにすれば良い。
- ・鶴川図書館を新しくしても今以上の利用者は見込めない。
地域に求められているのかなどを検討した方が良い。

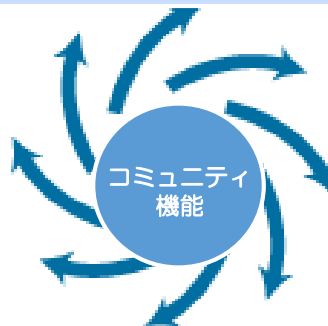
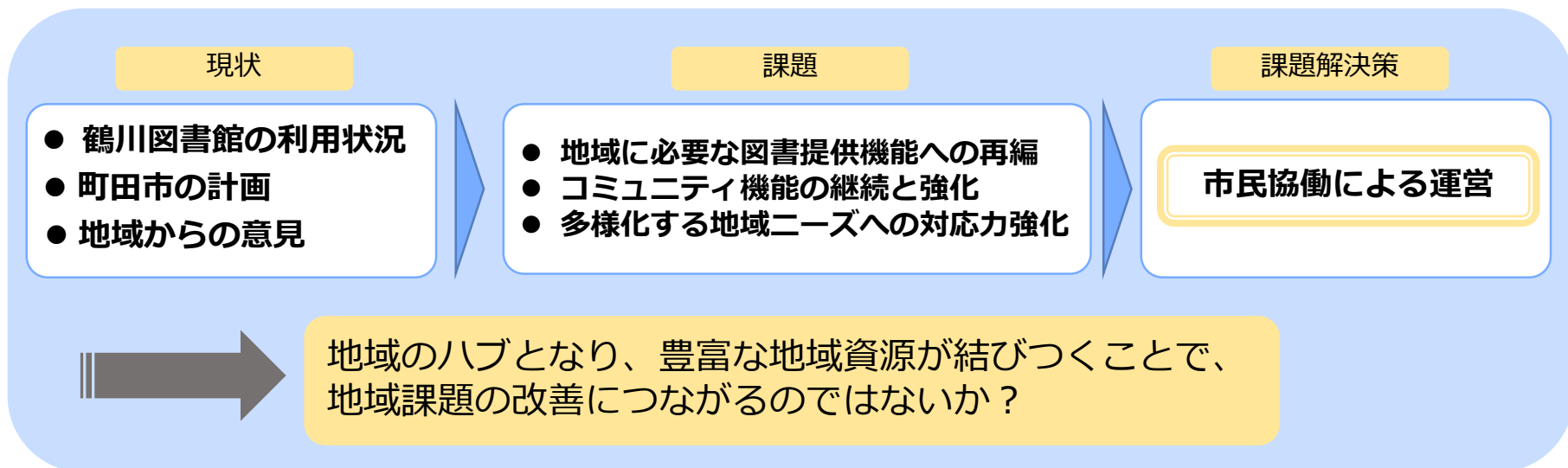
図書館
としての機能

- ・人が集まる場として図書館が残ってくれるならば良い。
- ・地域のコミュニティスペースとして商店街と一体となって地域に必要な施設の一つ。
単に利用者の減少を理由とてなくさないでほしい。
- ・近隣の大学と連携できると活気がでるのではないかな。
- ・今の鶴川図書館は居心地が悪いのですぐ帰っている。もっと座るスペースがほしい。
- ・ニューヨーク図書館のように、司書がコンシェルジュのような役割を果たせると良い。
- ・再編によって子ども達の居場所になるとよい。
- ・親子3世代で通っているので何らかの形で残してほしい。
- ・地域に新たな価値が生まれるなら再編を進めるのが良いと思う。

コミュニティ
としての機能

3. これからの方向性について

これまでの経緯や諸条件の整理、地域の方々へのヒアリングを通じて、再編後のすがたについて検討をしてまいりました。



地域が主体となって運営する
図書コミュニティ施設

- ・興味深く、魅力的な本に出会える
- ・地域住民の誰もが無料で借りることができる
- ・目的や用事がなくても気軽に過ごせる場
- ・地域のニーズに沿った蔵書の提供
- ・本を通じて、世代や地域を超えた多様な人と出会いつながることができる

- ・利用者やスタッフとの会話を生みだす
- ・多世代が交流できるきっかけの提供
- ・地域活動へのコーディネート
- ・まちの情報発信
- ・居心地の良い空間がある

- ・来訪者数および運営に参加する団体数の増加
- ・地域の人材が可視化される
- ・地域住民の活躍の機会がある
(雇用や活動、発表の機会など)
- ・自分の楽しみを探せる
- ・まちへの愛着がわき、まちが好きになる

わくわく発見！鶴川団地の図書館に行ってみよう

2021年2月-3月に行ったワークショップ、「鶴川図書館再編後の姿を考える」では参加者のみなさんから「こんな図書館がいいな！こんな図書館が地域にあるといいな！」のアイディアをたくさんいただきました。その一部のトライアル実施を目的に、2022年10月30日（日）に鶴川団地でイベントを開催しました。当日は、延べ約300人の方々にご参加いただきました。

今後に向けて「こんなことができたらいいな！」を聞いてみました

これまで寄せられたアイディアをもとに、シール投票を行いました！

投票総数は325票（約108人が回答）で、「今回のようなイベントがあったら嬉しい」「おすすめの本を知りたい」「放課後に来たい」など、みなさん楽しいイメージを膨らませている様子でした。



	子ども	大人	高齢者
第1位	おすすめ本棚	青空図書イベント	仕事や勉強
第2位	青空図書イベント	放課後の居場所	おすすめ本棚 読み聞かせ会
第3位	放課後の居場所	おすすめ本棚	ワークショップ・ 勉強会

本をヒントにしたクイズラリーや、ハロウィンにちなんだ工作ブースも

「鶴川団地センター名店街にある図書館」という特徴を活かし、センター名店街をぐるっと周遊するクイズラリーや、ハロウィンにちなんで魔女やカボチャの帽子、お菓子を入れる袋などの工作を企画しました。子どもたちは、スタッフの説明を聞きながら一生懸命に作っていたほか、クイズラリーのヒントとなる絵本を真剣に読んでいるようすが見受けられました。



鶴川団地の図書館にあつまろう！～みんなで作ろう～

今まで行ってきた意見交換や地域の資源を改めて再確認していく中で、鶴川団地センター内にあるという立地を活かし、「まちの人や情報の交流機能」を果たせるのではないかと考えました。

そこで、「みんなで作ろう」を合言葉に集まった方々と一緒に手を動かしていく企画を行いました。当日は約120名の方にお立ち寄りいただきました。

本をながめながら、オリジナルブックカバーづくり

読書をもっと楽しく行ってもらうことを目的に、オリジナルブックカバーづくりのワークショップを行いました。

司書がセレクトしたおすすめ本から選んでいく方、自分で貸りてきた本につけたいと制作にやってくる方などからそれぞれ「ブックカバーが欲しいと思っていた」「自分で作るのははじめてで楽しかった」などの感想をいただきました。子供からお年寄りまで幅広い世代、約40名にご参加いただきました。一部は1月末まで鶴川図書館に展示しています。



鶴川のこと教えてください！まちのアーカイブ（記録）マップをつくろう

「まちの人や情報の交流機能」のトライアル実施として、まちのアーカイブマップづくりを行いました。

12月上旬より鶴川地区の公共施設6箇所にポストを設置し事前アンケートで寄せられた意見や、当日参加される方とお話ししながら「今はないけどお気に入りだったお店」「景色のよい散歩コース」など様々な情報が集まりました、大きく印刷した地図に記入していきましました。今後web上でもご確認いただける形にまとめます。



当日書き込みしたマップのようす

皆さんと一緒に目指したい姿

「本に触れ合う場と機会を継続的に提供する」
「気軽に参加できる地域のコミュニティの場をつくる」
「地域のやってみたい、を実現できる場をつくる」



これからの方向性

- 鶴川図書館を民設民営の地域施設へ転換
- 公立図書館では実現できなかった物販や飲食など、商店街隣接の利点を最大限活かす
- 地域が管理できる蔵書規模の図書提供機能と地域活動につなげるコミュニティ機能を提供
- 町田市が運営費を補助
- 地域が設立する団体が運営することで、地域住民の活躍の機会を創出

4. 方向性の実現に向けて

図書コミュニティ施設のイメージ

	現行	図書コミュニティ施設	拡充/縮小
図書貸し出し機能	・市立図書館の蔵書。幅広いジャンルを揃える。 ・国会図書館や都立図書館、他自治体の図書館から取り寄せ可能。 ・図書の予約、受け取りができる。	・地域がほしい資料を自分で選んで揃えられる。	拡充
		・市立図書館の蔵書は置かない。 ・国会図書館や都立図書館、他自治体の図書館から取り寄せはできない。	鶴川駅前図書館へ集約
		・予約本の受け取りサービスは、引き続き提供。	継続
図書相談機能	・読書案内、読書相談の実施。 ・利用者の調査・研究の支援（レファレンス）を実施。	・住民や地域団体からのそれぞれのおすすめ本を紹介でき、多様な読書案内が可能。	拡充
		・レファレンスは鶴川駅前図書館で提供可能。 ・読書相談であれば人材を確保の上提供可能。	鶴川駅前図書館へ集約
居場所機能	・館内に数席の閲覧席を用意。 ・会話は推奨されず、静かに過ごす場所。	・ゆとりある座席や居心地の良い空間を提供。 ・カフェ程度の会話はできる。 ・利用者同士やスタッフとの何気ない会話が生まれる。	拡充
地域情報紹介 地域イベント開催	・地域の情報はレファレンスによって提供している。 ・イベントは直営のみで実施。	・自分の興味や関心がどこにあるのかを一緒に考えてくれる。 ・興味ある地域での取組みにつなげるコーディネートを実施。 ・地域団体主催のイベントを中心に実施。 ・ICTなどを活用した情報発信により、情報にアクセスしやすくなる。	拡充
飲食・物販	・蓋付きの飲み物は可能。食事は不可。 ・物販はしていない。	・飲食可能。イベントによっては、商店街の品物を使って昼食・夕食会を実施。 ・お酒を飲みながら気軽に本が読める“ブックバー”をイベント開催。 ・住民の手作りの品を販売。物販フリーボックスを配置。	拡充
地域の 運営への参加	・おはなし会ボランティアなど限られた範囲で参加。	・限られた枠組みの中での参加ではなく、主体的にやってみたいことを提案し、仲間と一緒に実現できる。 ・全体運営の中で、地域の声に合わせた柔軟な取り組みを試行できる。	拡充

4. 方向性の実現に向けて

20

図書コミュニティ施設のイメージ



活用できる空間と改修イメージ

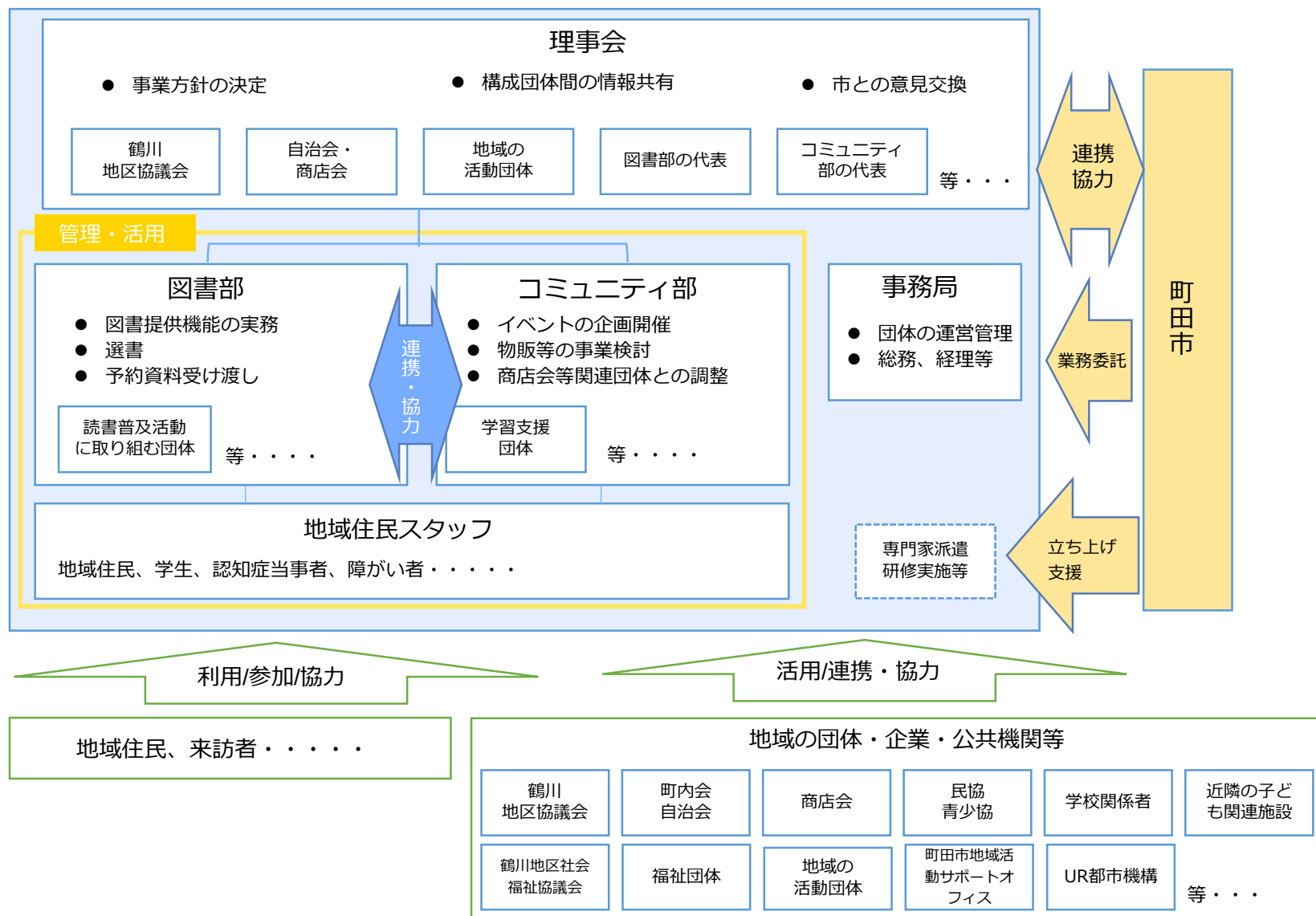


現在の鶴川図書館にある什器を活かしながら、図書コミュニティ施設の機能にあう空間に改修を行う予定です。

今後、運営団体設立準備会にて検討をしますが、改修にあたっては、ワークショップ等を通じて市民の皆さんとも一緒に作っていく予定です。



【参考】運営のイメージ（案）



スケジュール（予定）

年度	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
施設位置	現在地	現在地	現在地	現在地	現在地	現在地	仮設	仮設	仮設	仮設	仮設	新施設
運営形態	町田市による運営	町田市による運営 地域団体への一部業務委託	地域団体による自主運営（町田市が運営費を補助）									
蔵書規模	49,000冊	規模の縮小 (時期は検討状況による)	地域が管理できる規模の蔵書数									
施設の位置付け	図書館法上の図書館		地域施設（民設民営の図書コミュニティ施設）									

今後の進め方としては、鶴川地区協議会と協議をしながら「運営団体設立準備会」を立ち上げる予定です。

2023年度は、本日ご説明したこれからの方向性をもとに、地域のみなさまとの丁寧な対話を継続させていただきながらすすめていきます。